

I 感謝と祈り

1. 「こういうわけで私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いているので」：15。パウロは、いつも、まず、相手の良い所を評価する。見習いたい。パウロの感謝の理由、内容。「①主イエスに対するあなたがたの信仰と②すべての聖徒に対する愛」。すべての聖徒に対する愛の前に、主イエスに対する信仰が先に記されている事は注目すべき順序です（恵みが先で平安があるように）。人との交わりの前に、主との交わりが大切です。主への信仰と主との交わりから愛（識別力のある愛＝i 自分の分、ii 人の分、iii 互いに協力して助け合う分、iv 神の分を分別する）が生まれます。主を間に置いた横の関係も大切。神との交わりと人との交わりのバランスが大切。※十字架の十字の譬え。

なぜなら、神の愛を聞き、主イエスを信じて救われ、父なる神と主の愛による罪の赦しを受け、心が満たされ、救いの証印、保証（天国の前味）である聖霊が心に生まれ、その内住の御霊の助けによって人々（自分にとって難しい人をも）を愛する事ができるのです。※証し：正直な祈りと神からの愛。I ヨハネ3：23でも、同じく大切な順序が記されています→「神の命令とは、①私たちが御子イエス・キリストを信じ、キリストが命じられたとおりに、②私たちが互いに愛し合うことです」。主の教会は、①主への信仰という縦の関係と②主からの愛で互いに愛し合う横の関係を共にバランス良く、大切に作る共同体です。

2. パウロの実践。「祈るときには、あなたがたのことを思い、絶えず感謝しています」：16。「あなたがたのことを思い」→自分のことだけでなく、兄弟姉妹のために感謝し祈る。神からいただく愛をもって祈る。「どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。また、…福音の奥義を大胆に知らせることができるように私のためにも祈ってください」（エペソ6：8，19）。教会は、祈る側と祈ってもらう側が決まっているのではなく、互いに祈り合い支え合う共同体。「絶えず感謝をささげ」：16→感謝をささげ：課題だけを祈るのではなく、主の恵みを数え、感謝を忘れず、感謝を絶やさない。※感謝と課題の習慣の証し。なぜ、感謝を絶やさないことが可能なのでしょうか。それは、神ご自身が、私たちへの愛、恵みを絶やされないからです。試練の中でも神の恵み、愛は、私達に与えられているのです。それを見失わないように、どんな時にも神を見上げ、神の恵みを数え、神が生きて働いておられる事を信仰の目で見ると、感謝があふれてきます。パウロはこの時、獄中にいましたが、神の恵みに目を留めて感謝と祈りをささげていたのです。「祈るときには、あなたがたのことを思い、絶えず感謝しています」→まず主が片時も私達の事を忘れず覚えて（ルカ23：42、43）支えておられる事を覚え感謝し、パウロも私達も兄弟姉妹の事を覚え、名を挙げて執り成し祈るのです。執り成し祈る人は、感謝にもあずかる。主の恵みを共に喜べる。

Ⅱ とりなしの祈りの内容。最初の祈り。「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように」：17。

1. 「栄光の父」：栄光に輝く御父、栄光の源である御父。人の心に光を輝かす栄光の父。

2. 「神を知るための」：神を一度で知り尽くせる人はいない。神は偉大なお方。それゆえ、キリスト者と教会の使命（神が願い喜ばれる事）は、神を深く知り（神を知る事は、神と深く交わり人格的に、体験的に神を知る事）続け、神をほめたたえ、宣べ伝え、主の教会を建て上げる事です。「誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを」（エレミヤ9：24）。「全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ」（ホセア6：6）。「永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知る（知り続ける、いよいよ深く知る、みことは、御聖霊、深い交わり、日常生活で神が生きて働かれる恵みを体験する事により）ことです」（ヨハネ17：3）。永遠の命とは、主を信じた時から与えられる豊かな命。「神と私たちの主イエスを知る（深く知る）ことによって、恵みと平安が、あなたがたの上ますます豊かにされますように」（Ⅱペテロ1：2）。「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識（主を深く知る）において成長しなさい」（3：18）。「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損とと思っています」（ピリピ3：8。物事の捉え方、価値観の変革・人間的なものを誇らず頼まず、素晴らしい主を誇り主を頼みとする人生）。神を深く知り続ける時（御聖霊、御言葉、祈り、礼拝、分かち合い、苦しみ、試練、体験等を通して）私達のすべての価値観、すべての領域が変えられ続ける！→教会生活・日常生活・社会生活・礼拝・伝道・教育・交わり・奉仕・祈り・経済の管理・自己認識・人への理解。

3. 「知恵と啓示の御霊」：知恵＝1：8、3：10。啓示＝おおいを取り除く事、現わす事、神の奥義、真理の啓示。私達の生まれながらの理性によっては到底知る事のできない神ご自身についての真理を神の側から教えて下さる事。神が私達を愛され心を開き、ご自身を私達に知らせて下さる驚くべき恵み、愛！神が知恵と啓示の御霊を私達に与え、その御霊が私達に、御言葉を教えて下さる時にのみ神を深く知り続けることができるのです。※偉大な神を理解する為に100万年、瞑想しても、理解できない。偉大な神が、私達に心を開いて、ご自身のことを、言葉で伝えてくださらなければ、決して神の事は解らない。神は、私達に、ご自身の事が分かるように、神を説き明かすイエス様、聖書、御聖霊を与えられた。感謝します！ペンテコステに降臨された御聖霊は＝「父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます」ヨハネ14：26。「真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。…御霊はわたしの栄光を現わします」16：13、14。

祈り：私達に聖霊を与え満たし、なおも深く神を知り続け、成長して行く者として下さい。絶えず感謝し、互いに執り成し祈る者として下さい。聖霊に満たされ、主を宣べ伝え、主の教会を愛し、共に教会を建て上げる者として下さい。